

Hagiwara K, Yonenaga T, Fukuda K. Dual-Energy CT with iodine map: spectrum of hand psoriatic arthritis. RSNA 2016 (The 102nd Scientific Assembly & Annual Meeting of the Radiological Society of North America). Chicago, Nov.

- 17) Kobashi Y, Munetomo Y, Baba A, Yamazoe S, Mogami T. MR finding of Deltoid ligament tear: how often the ATFL tear is complicated with the deltoid ligament tear? AMS 2017 (19th Annual Meeting and Refresher Course of the Asian Musculoskeletal Society) in Tokyo Joint Meeting with Japanese Society of Musculoskeletal Radiology (JSMR) and Bone & Soft Tissue Tumour Club (BTC) of Japan. Tokyo, Jan.
- 18) Tokashiki T, Sakuma T, Fukuda K. A report of a case with POEMS syndrome found by pulmonary hypertension. AMS 2017 (19th Annual Meeting and Refresher Course of the Asian Musculoskeletal Society) in Tokyo Joint Meeting with Japanese Society of Musculoskeletal Radiology (JSMR) and Bone & Soft Tissue Tumour Club of Japanese pathologists (BTC). Tokyo, Jan.

外 科 学 講 座 消 化 器 外 科

- 教授： 矢永 勝彦 消化器外科
 教授： 吉田 和彦 消化管外科
 教授： 三森 教雄 消化管外科
 教授： 岡本 友好 肝胆膵外科
 客員教授： 柏木 秀幸 消化管外科
 (富士市立中央病院に outward 中)
 客員教授： 羽生 信義 消化管外科
 (町田市民病院に outward 中)
 客員教授： 大塚 正彦 消化管外科
 (川口市立医療センターに outward 中)
 客員教授： 池内 健二 消化管外科
 (仁淀病院に outward 中)
 准教授： 三澤 健之 肝胆膵外科
 准教授： 石橋 由朗 消化管外科
 准教授： 小川 匡市 消化管外科
 准教授： 石田 祐一 肝胆膵外科
 准教授： 河原秀次郎 消化管外科
 准教授： 河野 修三 消化管外科
 准教授： 高山 澄夫 消化管外科
 (益子病院に outward 中)
 准教授： 柳澤 暁 肝胆膵外科
 (佐々木病院に outward 中)
 准教授： 松田 実 肝胆膵外科
 (春日部中央総合病院に outward 中)
 准教授： 中林 幸夫 肝胆膵外科
 (川口医療センターに outward 中)
 准教授： 小村 伸朗 消化管外科
 (西埼玉中央病院に outward 中)
 准教授： 田辺 義明 肝胆膵外科
 (新百合ヶ丘総合病院に outward 中)
 准教授： 保谷 芳行 消化管外科
 (町田市民病院に outward 中)
 准教授： 田中 知行 肝胆膵外科
 (東急病院に outward 中)
 講師： 高橋 直人 消化管外科
 講師： 西川 勝則 消化管外科
 講師： 脇山 茂樹 肝胆膵外科
 講師： 藤岡 秀一 肝胆膵外科
 講師： 衛藤 謙 消化管外科
 講師： 二川 康郎 肝胆膵外科
 講師： 矢野 文章 消化管外科
 講師： 諏訪 勝仁 消化管外科
 講師： 薄葉 輝之 肝胆膵外科
 講師： 柴 浩明 肝胆膵外科
 (新百合ヶ丘総合病院に outward 中)
 講師： 志田 敦男 消化管外科
 講師： 水崎 馨 肝胆膵外科
 (三島中央病院に outward 中)
 講師： 三浦英一朗 消化管外科
 (神奈川県リハビリテーション病院に outward 中)

- 講師： 梶本 徹也 消化管外科
(富士市立中央病院に outward)
- 講師： 渡部 通章 消化管外科
(厚本市立病院に outward)
- 講師： 小林 徹也 消化管外科
(新百合ヶ丘総合病院に outward)
- 講師： 坪井 一人 消化管外科
(富士市立中央病院に outward)

教育・研究概要

I. 消化管外科

1. 上部消化管外科

High-resolution manometry (HRM) と食道内インピーダンス pH 検査を用いて、アカラシアや GERD などの食道運動機能疾患の詳細な病態を検討している。同疾患に対する腹腔鏡下手術件数も多く、近年より低侵襲手術として Reduced port surgery (RPS) や Needlescopic surgery を行っている。さらに、2016 年からアカラシアに対し Per-oral endoscopic myotomy (POEM) を行い、ニーズや病態を考慮し、最適な治療を実践している。基礎研究としては、DNA chips を用いたマイクロアレイ解析の結果から新しい癌分子マーカーの開発を行っている。食道癌におけるユビキチン結合酵素 (E2) について検討を行い、高発現群で脈管侵襲やリンパ節転移が有意に多く予後不良であることを見出した。食道癌に関しては、昨年同様に食道癌手術における再建胃管の血流を術中にサーモグラフィーを用いて評価し、至適胃管作製の指標や術後の合併症 (狭窄、縫合不全) との関連性を引き続き検討している。また食道癌手術における術後の反回神経麻痺の予防ならびに術中予測についても術中反回神経モニタリングによってその有用性を検討している。2016 年から新たに HRM を用いて上部食道括約筋ならびに残食道の食道切除術後の運動機能を評価し始めた。

癌細胞が最初に転移すると考えられる SN リンパ節検索を行うことは、胃癌に対する縮小手術を行う上での指標になる可能性がある。赤外線内視鏡を用いることでリンパ流、リンパ節が容易に確認できる。われわれはこの先進的な治療法を世界に先駆けて開発し、これまでに 300 症例上の手術を行ってきた。現在は高度先進医療として提供している。また胃癌組織の悪性度を知る目的で、各種免疫染色および RT-PCR を行い転移に関するリスクファクターを探索している。また、BMI35 以上の肥満患者に対する減量手術 (腹腔鏡下胃スリーブ状切除術) を開始した。これまでに 3 症例に施行し、いずれも術後経過は順調である。

2. 下部消化管外科

直腸癌に対する低位前方切除術、超低位前方切除術において、一般的に右下腹部に予防的回腸瘻を造設していた。しかし、腹腔鏡手術の進歩に伴い、臍部の小切開創のみで手術ができるようになった。我々はこの臍部小切開創に回腸瘻を造設することにより、回腸瘻閉鎖後には、腹部にほとんど切開創を残さないとすむ術式を考案した。現在症例集積し、長期観察を行っている。

我々は消化器内科と合同でカンファレンスの開催、大腸癌化学療法のデータベースの症例登録を行っており、以前より用いている大腸がん手術のデータベースと併用することで化学療法のみならず大腸がんに対する集学的治療に関して検討していく予定である。また、今年度より Stationary 3D-manometry を用いた肛門機能検査を開始し、肛門疾患のみならず術後機能障害も含めた総合的な治療に取り組むことを目指している。

基礎研究として癌部及び粘膜における組織を採取し、タンパク質の発現を網羅的に解析することで腫瘍マーカーや治療標的となるようなタンパク質を同定することを目標としている。大腸癌手術検体から cDNA ライブラリーを作成し、生化学講座 (吉田清嗣教授) との共同研究で大腸癌の進展・増殖に関与すると考えられる細胞内シグナル分子の発現解析を行う。現在、細胞周期制御や c-jun/c-myc のリン酸化に関与している DYRK2 の解析を行っており、過去のデータベースと比較し、DYRK2 およびその関連遺伝子の発現と大腸癌の病期や悪性度、臨床症状との関連を評価する。また、直腸癌における化学放射線治療に関して、放射線により癌細胞周囲の微小環境の炎症が惹起され、腫瘍細胞の増殖、浸潤、血管新生に関与する転写因子 NF- κ B の活性化や細胞外基質分解酵素である Matrix metalloproteinase (MMP) の分泌が促進されることが判明している。また NF- κ B は直接的に MMP を誘引することが報告されている。MMP により基底膜が分解され、脈管侵襲を介し循環腫瘍細胞として血流に脱出し、転移臓器へと到達する。そのため癌転移のイニシエーターである MMP の抑制は、術後遠隔転移の抑制へとつながる。癌微小環境の炎症惹起を引き起こす NF- κ B に着目し、その発現調節による再発・転移抑制効果を検討する。構築した cDNA ライブラリーと臨床データベースを活用し、今後の基礎研究の基盤を整えていく。

II. 肝胆膵外科

生体肝移植術は現在まで ABO 血液型不適合移植 3 例を含む計 20 例施行した。術後経過は良好で、ドナーは全員早期に術前状態に復し、レシピエントも入院死亡なく術後早期に退院している。急性肝不全例への適応拡大を準備中で、今後脳死移植施設認定を目指す。

当科での肝細胞癌切除後 5 年生存率は 75% と全国調査の 56.8% に比べ良好である。肝細胞癌（特に非 B 非 C 型）の臨床病理学的特徴を検討し治療成績向上をはかる。

膵・胆道癌の新規化学療法では、メシル酸ナファモスタット (NAM) が NF- κ B を不活化し、抗癌剤併用下で抗腫瘍効果を増強することを見出し、オリジナルの臨床試験（第 II 相）を切除不能膵癌 (NAM・塩酸ゲムシタピン (Gem)・S-1 療法)、切除不能胆道癌 (Gem・シスプラチン・S-1 療法) に導入し、外科手術 conversion 可能症例には切除も行っている。基礎研究では様々な癌腫で、NF- κ B を標的とした抗癌剤感受性改善に関する研究を継続している。

下部消化管癌と連携し切除可能な大腸癌肝転移例に積極的な先行切除を行い、切除不能例には切除への conversion を念頭に置き化学療法を施行している。両葉多発病変にも門脈塞栓併用の二期的肝切除等で根治切除を目指している。

腹腔鏡下手術の導入で低侵襲化をはかり、肝切除（部分切除・外側区域切除）、膵体尾部切除（低悪性度膵腫瘍）を施行してきた。2016 年度より保険収載された肝部分切除・外側区域切除以外の肝切除、膵頭十二指腸切除、悪性疾患に対する膵体尾部切除についても施設基準を満たしており、腹腔鏡下手術を導入すべく準備中である。

生体肝移植手術等の肝切除に 3-D 画像解析ソフトによる術前シミュレーションを導入し安全で正確な手術を行っている。第三病院では高次元医用画像工学研究所と共に開発した手術ナビゲーションを開腹手術に加えて腹腔鏡下手術にも応用している。

術後早期栄養 (ERAS) や化学療法時の栄養療法を実践し、サルコペニアと予後・合併症との関連も検討中である。

周術期サーベイランスで手術部位感染症リスク因子の解析と介入を行い手術成績向上に努めている。

現在 5 名の大学院生が基礎研究に従事している。臨床では新たに 1 名が肝胆膵外科高度技能専門医に認定され本学 4 人目となった。附属 4 病院と川口市立医療センターの 5 施設が修練施設に認定され、高

度技能専門医取得に向けた修練体制が整備されている。また内視鏡外科技術認定医、ICD、外科栄養 (TNT) 等の資格取得も支援している。周術期管理と高度な肝胆膵手術手技の習得、データ解析により国内外での学会発表、英文論文作成ができるよう指導している。

「点検・評価」

HRM とインピーダンス法を術前後に行い、食道運動機能疾患に対する手術効果も評価可能となった。ユビキチン類似蛋白質である SUMO-1 の高発現群では脈管侵襲やリンパ節転移が有意に多く、悪性度の高い食道癌での発現が亢進していた。食道癌の新しい癌分子マーカーとして有望であることが示唆された。サーモグラフィーによる再建胃管の評価によって、適切な吻合部位を同定することができ術後の縫合不全を低減できる可能性がある。術中反回神経モニタリングに関しては、術後反回神経麻痺との相関性が見られ、今後は感度、特異度などを検証する予定である。食道切除術後の残食道の運動機能評価に関しては、HRM を用いることで術後の誤嚥や嚥下機能障害の原因を客観的に評価できるようになった。

センチネルノードナビゲーション手術 (SNNS) を胃癌に対して高度先進医療として実施し、症例を積み重ねている。2017 年には第 19 回 SNNS 研究会学術集会を三森教雄教授が主催する予定である。また当科における SNNS 術関連の英文原著・総説は 2003 年以降、これまでに 10 編以上英語論文化されている。分子生物学領域に関しては、進行胃癌の治療成績向上を目指し悪性度、抗癌剤感受性などの特性を解明するために組織の各種免疫染色および癌組織における mRNA 発現と臨床病理学的因子や生命予後との関連性を検証している。最近の研究結果としては、核内転写調節因子である ZNF217 (Zinc finger protein 217) が独立した予後増悪因子であること解明した。¹³C 呼気試験法による胃切除後消化管機能診断は学術的に高く評価されており、文部科学省と共同の「安定同位体医学応用研究基盤拠点の形成プロジェクト」に参加している。

Virtual reality surgical simulator を、結腸右半切除術を必要とする患者 10 名に対して作成し、術前に simulator を使用後に手術を施行した。全例大きな合併症を認めず、また解剖についての把握も詳細に行え、Virtual reality surgical simulator の効果はあったものと考えられた。ストレス解析は、現在 4 人のスタッフをモニタとしデータ集積が終了し、英

文誌に投稿中である。

臍部回腸瘻は現在約 80 症例が蓄積された。74 例集積時に解析を行い、従来の右下腹部回腸瘻と比較して、初回手術での合併症の差はなく、回腸瘻閉鎖時の合併症は、従来の右下腹部回腸瘻よりも少ないという結果を論文化し accept されている。今後さらに症例の蓄積を進めていく。

直腸肛門手術後の機能改善に継続して取り組んでいる。大腸癌凍結検体から DNA を抽出し、コピー数多型と再発・予後との関係の解析を継続しており、新しい予後予測因子の発見を目指している。

生体肝移植ではこれまでの成績を維持し、さらに症例数の増加を目指す。また急性肝不全症例へと適応拡大を図る。肝細胞癌の治療では良好な手術成績が達成できており、今後特に非 B 非 C 型肝細胞癌に関する病態解明を進める。膵臓癌に対しては世界をリードする臨床研究が進んでいる。転移性肝癌に対しては術前門脈塞栓、conversion therapy としての術前化学療法、術中造影超音波、二次的肝切除を駆使した積極的肝切除を進める。肝胆膵脾領域の腹腔鏡下手術に積極的に取り組んでおり、今後も症例の蓄積を行なう。肝胆膵外科手術におけるナビゲーションの実用化を目指した研究が進んでいる。

外科手術成績の向上の面から、栄養療法や SSI 減少を目指しており、NST (Nutritional support team) や Infection control doctor, 感染制御チームとともに厳格な周術期管理を行い術後合併症予防に努めている。また他施設との共同研究を通して研究面での協力・発展を目指す。今後も基礎教室との連携を広げ、若手外科医に深みのある研究を行う機会を創出すべく臨床及び研究システムの整備を進めていく。

研究業績

I. 原著論文

- 1) Hoya Y, Taki T, Watanabe A, Nakayoshi T, Okamoto T, Mitsumori N, Yanaga K. Durable flap-valve mitigation of duodeno-gastric reflux, remnant gastritis and dumping syndrome following Billroth I reconstruction. *J Gastrointest Surg* 2016; 20(4) : 772-5.
- 2) Nishikawa K, Fujita T, Yuda M, Yamamoto SR, Tanaka Y, Matsumoto A, Tanishima Y, Yano F, Mitsumori N, Yanaga K. Early postoperative endoscopy for targeted management of patients at risks of anastomotic complications after esophagectomy. *Surgery* 2016; 160(5) : 1294-301.
- 3) Takahashi N, Nimura H, Fujita T, Mitsumori N, Shiraishi N, Kitano S, Satodate H, Yanaga K. Laparo-

scopic sentinel node navigation surgery for early gastric cancer: a prospective multicenter trial. *Langenbecks Arch Surg* 2017; 402(1) : 27-32.

- 4) Yano F, Omura N, Tsuboi K, Hoshino M, Yamamoto SR, Akimoto S, Masuda T, Mitsumori N, Kashiwagi H, Yanaga K. Outcomes of redo surgery for failed laparoscopic fundoplication. *Esophagus* 2016; 13(3) : 290-4.
- 5) Tsuboi K, Omura N, Yano F, Hoshino M, Yamamoto SR, Akimoto S, Masuda T, Kashiwagi H, Yanaga K. Gender differences in both the pathology and surgical outcome of esophageal achalasia patients. *Surg Endosc* 2016; 30(12) : 5465-71.
- 6) Shida A, Mitsumori N, Fujioka S, Takano Y, Iwasaki T, Takahashi N, Ishibashi Y, Omura N, Yanaga K. Comparison of short-term and long-term clinical outcomes between laparoscopic and open total gastrectomy for patients with gastric cancer. *Surg Laparosc Endosc Percutan Tech* 2016; 26(4) : 319-23.
- 7) Aoki H, Aoki M, Katsuta E, Ramanathan R, Idowu MO, Spiegel S, Takabe K. Host sphingosine kinase 1 worsens pancreatic cancer peritoneal carcinomatosis. *J Surg Res* 2016; 205(2) : 510-7.
- 8) Matsumoto A, Watanabe M, Mine S, Nishida K, Shigaki H, Kawabata K, Yanaga K, Sano T. Comparison of synchronous versus staged surgeries for patients with synchronous double cancers of the esophagus and head-and-neck. *Dis Esophagus* 2017; 30(1) : 1-6.
- 9) Hoshino M, Omura N, Yano F, Tsuboi K, Yamamoto SR, Akimoto S, Kashiwagi H, Yanaga K. Backflow prevention mechanism of laparoscopic Toupet fundoplication using high-resolution manometry. *Surg Endosc* 2016; 30(7) : 2703-10.
- 10) Konishi H, Nakada K, Kawamura M, Iwasaki T, Murakami K, Mitsumori N, Yanaga K. Impaired gastrointestinal function affects symptoms and alimentary status in patients after gastrectomy. *World J Surg* 2016; 40(11) : 2713-8.
- 11) Taki T, Hoya Y, Watanabe A, Nakayoshi T, Okamoto T, Sekine H, Mitsumori N, Yanaga K. Usefulness of chemoradiotherapy for inoperable gastric cancer. *Ann R Coll Surg Engl* 2017; 99(4) : 332-6. Epub 2016 Sep 23.
- 12) Fujisaki M, Shinohara T, Hanyu N, Kawano S, Tanaka Y, Watanabe A, Yanaga K. Laparoscopic gastrectomy for gastric cancer in the elderly patients. *Surg Endosc* 2016; 30(4) : 1380-7.
- 13) Akimoto S, Singhal S, Masuda T, Yamamoto SR,

- Svetanoff WJ, Mittal SK. Esophagogastric junction morphology and distal esophageal acid exposure. *Dig Dis Sci* 2016; 61(12) : 3537-44.
- 14) Suwa K, Nakajima S, Uno Y, Suzuki T, Sasaki S, Ushigome T, Eto K, Okamoto T, Yanaga K. Laparoscopic modified Sugarbaker parastomal hernia repair with 2-point anchoring and zigzag tacking of Parietex™ Parastomal Mesh technique. *Surg Endosc* 2016; 30(12) : 5628-34.
- 15) Eto K, Kosuge M, Ohkuma M, Haruki K, Neki K, Mitsumori N, Ishida K, Yanaga K. Comparison of transumbilical and conventional defunctioning ileostomy in laparoscopic anterior resections for rectal cancer. *Anticancer Res* 2016; 36(8) : 4139-44.
- 16) Fujioka S, Misawa T, Yanaga K. Isolating tape method is useful for an early judgment of curability during pancreaticoduodenectomy for pancreatic cancer. *J Hepatobiliary Pancreat Sci* 2016; 23(10) : E20-4.
- 17) Usuba T, Misawa T, Ito R, Yoshida K, Hanyu N, Yanaga K. Safety of no-stented pancreaticojejunostomy in pancreaticoduodenectomy for patients with soft pancreas. *Anticancer Res* 2016; 36(12) : 6619-23.
- 18) Sakamoto T, Ishii Y, Shiba H, Furukawa K, Fujiwara Y, Haruki K, Iwase Y, Shirai Y, Yanaga K. Inhibitory effect of anti-rheumatic drug iguratimod for hepatocellular carcinogenesis by inhibition of serum interleukin-8 production. *Anticancer Res* 2016; 36(7) : 3301-6.
- 19) Furukawa K, Gocho T, Shirai Y, Iwase R, Haruki K, Fujiwara Y, Shiba H, Misawa T, Yanaga K. The decline of amylase level of pancreatic juice after pancreaticoduodenectomy predicts postoperative pancreatic fistula. *Pancreas* 2016; 45(10) : 1474-7.
- 20) Haruki K, Shiba H, Shirai Y, Horiuchi T, Iwase R, Fujiwara Y, Furukawa K, Misawa T, Yanaga K. The C-reactive protein to albumin ratio predicts long-term outcomes in patients with pancreatic cancer after pancreatic resection. *World J Surg* 2016; 40(9) : 2254-60.
- 21) Haruki K, Shiba H, Horiuchi T, Sakamoto T, Gocho T, Fujiwara Y, Furukawa K, Misawa T, Yanaga K. Impact of the C-reactive protein to albumin ratio on long-term outcomes after hepatic resection for colorectal liver metastases. *Am J Surg* 2017 Feb 6. [Epub ahead of print]
- 22) Shirai Y, Uwagawa T, Shiba H, Shimada Y, Horiuchi T, Saito N, Furukawa K, Ohashi T, Yanaga K. Recombinant thrombomodulin suppresses tumor growth of pancreatic cancer by blocking thrombin-induced PAR1 and NF- κ B activation. *Surgery* 2017 161(6) : 1675-82. Epub 2017 Jan 13.
- 23) Horiuchi T, Uwagawa T, Shirai Y, Saito N, Iwase R, Haruki K, Shiba H, Ohashi T, Yanaga K. New treatment strategy with nuclear factor- κ B inhibitor for pancreatic cancer. *J Surg Res* 2016; 206(1) : 1-8.
- 24) 二川康郎, 奥井紀光, 藤原佑樹, 北村博頭, 伊藤隆介, 三澤健之, 三森教雄, 矢永勝彦. 十二指腸悪性狭窄に対する腹腔鏡下胃空腸バイパス術に関する検討. *日内視鏡外会誌* 2017; 22(2) : 189-98.
- 25) 坂本太郎, 二川康郎, 矢永勝彦, 中村雅史, 田中雅夫. 本邦における腹腔鏡下膝切除の現状 全国アンケート調査結果. *日内視鏡外会雑誌* 2016; 21(5) : 527-34.

II. 総 説

- 1) Shida A, Mitsumori N, Nimura N, Takano Y, Iwasaki T, Fujisaki M, Takahashi N, Yanaga K. Prediction of lymph node metastasis and sentinel node navigation surgery for patients with early-stage gastric cancer. *World J Gastroenterol* 2016; 22(33) : 7431-9.
- 2) 矢野文章, 小村伸朗, 矢永勝彦. 【逆流性食道炎—最新の治療動向—】治療 逆流性食道炎に対する腹腔鏡下逆流防止手術. *日臨* 2016; 74(8) : 1316-21.
- 3) 星野真人, 小村伸朗, 矢野文章, 坪井一人, 山本世怜, 秋元俊亮, 柏木秀幸, 矢永勝彦. High-resolution manometry からみた腹腔鏡下 Toupet 型噴門形成術の逆流防止機序. *Prog Med* 2016; 36(3) : 352-3.
- 4) Suwa K, Okamoto T, Yanaga K. Closure versus non-closure of fascial defects in laparoscopic ventral and incisional hernia repairs: a review of the literature. *Surg Today* 2016; 46(7) : 764-73.
- 5) 河原秀次郎. 【誰も教えてくれなかった—慢性便秘の診かた】 ケース別対応難治性便秘の外科的治療. *Medicina* 2016; 53(9) : 1400-3.
- 6) 衛藤 謙, 石田勝大, 二宮友子, 矢永勝彦. 消化器外科セミナー 一時的臍部回腸ストーマ. *消外* 2017; 40(1) : 99-103
- 7) 岡本友好, 安田淳吾, 恩田真二, 矢永勝彦, 鈴木直樹, 服部麻木. 【Mesopancreasを攻める】 イメージガイド型ナビゲーションシステムを用いた inferior pancreaticoduodenal artery の確認. *胆と膵* 2017; 38(1) : 93-7.

III. 学会発表

- 1) Nishikawa K, Yuda M, Tanaka Y, Yamamoto SR, Matsumoto A, Yano F, Mitsumori N, Katsuhiko Yanaga. (Surgical Forum) Clinical application of thermal imaging systems for simulation of gastric

- tube formation in esophageal reconstruction after esophagectomy. The Society for Surgery of the Alimentary Tract (SSAT) 57th Annual Meeting. San Diego, May.
- 2) Yamamoto SR, Yano F, Tsuboi T, Hoshino M, Akimoto S, Nishikawa K, Mitsumori N, Omura N, Kashiwagi H, Yanaga K. Correlation between findings of timed barium esophagogram and post-operative symptoms in patients with achalasia. ISDE 2016 (15th World Congress of the International Society for Diseases of the Esophagus). Singapore, Sept.
 - 3) Kawahara H, Ogawa M, Suwa K, Eto K T, Yanaga K. (Oral) Surgical outcome of laparoscopic colectomy for T4a colon cancer. 40th World Congress of the International College of Surgeons. Kyoto, Oct.
 - 4) Sugano H, Shirai Y, Saito N, Horiuchi T, Shiba H, Eto K, Uwagawa T, Ohashi T, Yanaga K. (Oral) Inhibitor of NF- κ B enhances the antitumor effect of radiation therapy in colorectal cancer. 12th Annual Academic Surgical Congress. Las Vegas, Feb.
 - 5) Misawa T, Yanaga K. 10-year experience with laparoscopic pancreatic surgery by a single surgeon: a challenge of minimizing postoperative pancreatic fistula. SAGES (Society for American Gastrointestinal and Endoscopic Surgeons) 2016 Annual Meeting. Boston, May.
 - 6) Uwagawa T, Sakamoto T, Nakaseko Y, Takano Y, Furukawa K, Kanehira S, Onda S, Gocho T, Shiba H, Arakawa Y, Aiba K, Yanaga K. Phase II study of combination chemotherapy of gemcitabine/S-1 with nafamostat mesilate for advanced unresectable pancreatic cancer: first report. ESMO (European Society for Medical Oncology) World Congress on Gastrointestinal Cancer 2016 (18th World Congress on Gastrointestinal Cancer). Barcelona, June.
 - 7) Gocho T, Yanaga K. (Panel: Liver Transplantation Vs. Resection for Hepatocellular Carcinoma; East Meets West) Comparison of criteria for resection of hepatocellular carcinoma. ACS Clinical Congress 2016 (102nd American College of Surgeons Annual Clinical Congress). Washington, D.C., Oct.
 - 8) Shirai Y, Shiba H, Uwagawa T, Shimada Y, Horiuchi T, Saito N, Sugano H, Iwase R, Haruki K, Fujiwara Y, Furukawa K, Ohashi T, Yanaga K. (Scientific forum) Recombinant thrombomodulin suppresses tumor growth of pancreatic cancer by blocking thrombin-induced NF- κ B activation. ACS Clinical Congress 2016 (102nd American College of Surgeons Annual Clinical Congress). Washington, D.C., Oct.
 - 9) Yasuda J, Okamoto T, Fujiwara Y, Suzuki F, Futagawa Y, Onda S, Yanaga K, Suzuki N, Hattori A. Clinical application of image-guided navigation surgery using tablet PC. ACCAS 2016 (The 12th Asian Conference on Computer Aided Surgery). Daejeon, Oct.
 - 10) Abe K, Uwagawa T, Nakaseko Y, Takano Y, Furukawa K, Onda S, Kanehira M, Sakamoto T, Shiba H, Gocho T, Ishida Y, Yanaga K. The validity of ω -3 fatty acids for patients on chemotherapy for biliary or pancreatic cancer. 12th Annual Academic Surgical Congress. Las Vegas, Mar.
 - 11) 小村伸朗, 矢野文章, 矢永勝彦. (ワークショップ 4: 難治性 GERD の病態から考える治療戦略) PPI 抵抗性 erosive GERD の病態と腹腔鏡下逆流防止手術の治療成績. 第 102 回日本消化器病学会総会. 東京, 4 月.
 - 12) 矢野文章, 小村伸朗, 坪井一人, 星野真人, 山本世裕, 秋元俊亮, 増田隆洋, 三森教雄, 柏木秀幸, 矢永勝彦. (ワークショップ 27: 内視鏡手術のトラブルシューティング) 食道良性疾患における腹腔鏡下手術の術中偶発症に対する対処法と術後経過. 第 71 回日本消化器外科学会総会. 徳島, 7 月.
 - 13) 松本 晶, 矢野文章, 谷島雄一郎, 坪井一人, 西川勝則, 石橋由朗, 三森教雄, 小村伸朗, 柏木秀幸, 矢永勝彦. (特別企画 2: 若手内視鏡外科認定取得者が教える認定のためのコツ) 食道アカラシアに対する腹腔鏡下 Heller-Dor 手術で内視鏡外科技術認定医を取得するための取り組み. 第 71 回日本消化器外科学会総会. 徳島, 7 月.
 - 14) 宇野耕平, 矢永勝彦. (シンポジウム 01: メタボリックサージェリーの新たな知見) 1 型糖尿病に対する Bariatric surgery の効果. 第 78 回日本臨床外科学会総会. 東京, 11 月.
 - 15) 諏訪勝仁, 牛込琢郎, 大津将路, 成廣哲史, 下山雄也, 岡本友好, 矢永勝彦. (ワークショップ 12: 腹腔鏡下腹壁癒痕ヘルニア修復術の定型化に向けた取り組み) 腹壁癒痕ヘルニア修復術におけるわれわれの術式選択. 第 29 回日本内視鏡外科学会総会. 横浜, 12 月.
 - 16) 衛藤 謙, 矢永勝彦, 小菅 誠, 北川和男, 根木 快, 平本悠樹, 武田光正, 宇野能子, 武田泰裕, 三森教雄, 大木隆生. (ワークショップ 16: 大腸癌治療における ERAS 導入とその実践) 大腸癌における腹腔鏡下大腸切除術に適した ERAS の鎮痛法: アセトアミノフェン定時投与+IVPCA の有用性に関する検討 (新しい ERAS の方向性). 第 116 回日本外科学会定期学術集会. 大阪, 4 月.
 - 17) 菅野 宏, 白井祥陸, 堀内 亮, 斉藤庸博, 根木 快, 小菅 誠, 柴 浩明, 衛藤 謙, 大橋十也, 矢永勝彦.

(ワークショップ6-2:消化管癌診療におけるバイオマーカーの役割)大腸癌肝転移に対する切除術に於けるPlatelet-to-Albumin Ratio (PAR)の有用性の検討. 第71回日本消化器外科学会総会. 徳島, 7月.

- 18) 岡本友好, 安田淳吾, 鈴木文武, 藤岡秀一, 恩田真二, 矢永勝彦. (特別企画4:工医連携が変える消化器外科-教育~再生~ロボット-)高次元医用画像工学技術を応用した手術教育システムの構築. 第71回日本消化器外科学会総会. 徳島, 7月.
- 19) Futagawa Y, Yanaga K, Kosuge T, Isaji S, Hirano S, Murakami Y, Yamaue H. (Project Study organized by Japanese Society of HPB Surgery) Outcome of pancreaticoduodenectomy in patients with chronic hepatic dysfunction. 第28回日本肝胆膵外科学会・学術集会. 大阪, 6月.
- 20) 春木孝一郎, 嶋田洋太, 堀内 堯, 白井祥睦, 岩瀬亮太, 藤原佑樹, 古川賢英, 柴 浩明, 宇和川匡, 三澤健之, 大橋十也, 矢永勝彦. (ワークショップ1 膵臓 1:膵がん治療の個別化に向けて)膵臓癌のPP2AによるGSK3活性制御がメシル酸ナファモスタットの抗腫瘍効果に及ぼす影響. 第54回日本癌治療学会学術集会. 横浜, 10月.

acute obstructive pancreatitis: report of a case. Surg Case Rep 2016; 2(1): 144.

- 3) Haruki K, Misawa T, Gocho T, Saito R, Shiba H, Akiba T, Yanaga K. Hepatocellular carcinoma with gastric metastasis, treated by simultaneous hepatic and gastric resection: report of a case. Clin J Gastroenterol 2016; 9(5): 319-23.
- 4) Hamura R, Haruki K, Tsutsumi J, Takayama S, Shiba H, Yanaga K. Spontaneous biliary peritonitis with common bile duct stones: report of a case. Surg Case Rep 2016; 2(1): 103.

IV. 著 書

- 1) 矢永勝彦. 肝臓の外科. 日本肝臓学会編. 平成28年度日本肝臓学会前期教育講演会テキスト. 東京:杏林舎, 2016, p.99-108.
- 2) 矢永勝彦. [疾患編]第X章:胆道疾患 6.先天性胆道拡張症. 日本肝臓学会編. 肝臓専門医テキスト. 改訂第2版. 東京:南江堂, 2016, p.365-7.
- 3) 矢永勝彦. [治療と予防編]第XVII章:肝移植 1.肝移植後の合併症. 日本肝臓学会編. 肝臓専門医テキスト. 改訂第2版. 東京:南江堂, 2016, p.472-3.
- 4) 矢永勝彦. [治療と予防編]第XVII章:肝移植 2.肝移植後の抗ウイルス療法. 日本肝臓学会編. 肝臓専門医テキスト. 改訂第2版. 東京:南江堂, 2016, p.474-5.
- 5) 柴 浩明, 矢永勝彦. II.基本手技 1.肝門部脈管処理 B.個別処理. 日本肝胆膵外科学会高度技能専門医制度委員会編. 肝胆膵高難度外科手術. 第2版. 東京:医学書院, 2016: p.54-60.

V. その他

- 1) Watanabe A, Seki Y, Kasama K. Laparoscopic sleeve gastrectomy with duodeno-jejunal bypass for morbid obesity in a patient with situs inversus totalis. Asian J Endosc Surg 2016; 9(3): 218-21.
- 2) Fujiwara Y, Suzuki F, Kanehira M, Futagawa Y, Okamoto T, Yanaga K. Radical resection of T1 adenocarcinoma with a pseudocyst of the tail due to